

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果 京都市立横大路小学校

4月に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめました。今年度は、国語科と算数科に加え、理科の調査も実施されております。また、家庭での過ごし方などを問う調査も同時に実施されています。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語科・算数科・理科）

どの教科においても、全国平均を下回る結果となりました。国語科・算数科では、漢字や計算といった基礎的な問題においても、全国平均を大きく下回る結果でした。ただ、無回答率は全国に比べると低く、本校の子どもたちは、あきらめずに何とか解答を記入しようと取り組んだことが分かります。

国語科

思考力・判断力・表現力等での「書くこと」「読むこと」については、全国平均を上回る結果となりました。その中でも図表などを用いて自分の考えが伝わるように書き表す工夫を問う問題については、全国平均よりも約5ポイント上回り、相手意識をもって発表する経験の積み重ねの表れです。

しかし、知識及び技能や思考力・判断力・表現力等での「話すこと・聞くこと」では全国平均を下回りました。特に、知識及び技能のうち、「情報の扱い方に関する事項」において全国平均を大きく下回りました。情報と情報の関連付けや語句と語句との関係を図に表すことができるようにならなければいけません。そのために、メモを取るときや内容を把握するときなどに短い言葉でまとめたり、キーワードとキーワードを線で結んだりという取組をしていく必要があると考えます。

算数科

唯一、平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する問題については、全国平均を上回る結果となりましたが、その他の領域・観点においては、全国平均を下回る結果となりました。特に「測定」と「変化と関係」の領域が全国平均を大きく下回りました。また、評価の観点で見ると、「思考・判断・表現」でも同じように全国平均を下回りました。

与えられた情報をしっかりと読み取り、数字だけを読み取るのではなく、問題を解くために大事なことを読み取るようにしていく必要があります。また、考えを式・図・言葉などを用いて交流したり説明したりする場を意識して設定する必要があると考えます。

数と計算においても、ただ「計算ができる」のではなく、なぜそのような計算の仕方になるのかを理解することを大切にしなければいけません。

理科

1問ずつ見していくと、数問は全国平均を上回る問題があったものの、全ての領域・観点において全国平均を下回る結果となりました。

全国平均を上回る問題の特徴を見てみると、生活の中で遭遇するような事象については、理解できているということがわかります。逆に生活経験に結びつかない設問については、正答率が低いということです。いかに、学習内容と生活経験を結びつけるかが大切であるということがわかりました。各単元のまとめの際には、身の回りの生活で生かされていることに触れたり、活用した学習をしたりする必要があると考えます。

児童質問紙の回答状況より①

「先生からよいところを認めてもらっている」「学校に行くのは楽しい」の回答は、全国平均よりも上回っていました。本校は、チーム担任制をとり、いろいろな教職員が授業で関わっています。また、授業以外でも多くの教職員が関わっていることで、子どもたちは、自分の良さを実感できていると思われます。

児童質問紙の回答状況より②

読書活動については、学校以外で本を読まない児童の割合が高く、新聞については、9割がほとんどまたは全く読まないという結果でした。

約8割の児童が「読書が好き」と回答している中、家にどれだけ本がありますかという質問には、25冊以下が6割を占め、その半分が10冊以下という回答でした。学校では、選書会、読み聞かせ、伏見図書館との連携（青い鳥号）など読書活動の充実を進めてきました。今後も取組を進めていきます。学校での読書活動が家庭へつながる工夫もしていきますので、家庭でもご協力をお願いします。

全体を通して本校の成果と課題

本校では、「夢を抱き、生き生きと輝く横大路の子」という学校目標のもと、目指す子ども像を「自ら学び続ける子」「喜びを分かち合う子」「未来を探究する子」を掲げています。保護者や地域の皆様のご協力をいただき、児童一人一人が毎日充実した日々が送れるよう教職員一丸となって、取組を進めています。

今回の結果から、3教科のすべてにおいて、1問ごとに見ると全国平均を上回る問題もありましたが、領域・観点で見ると全国平均を下回る結果でした。基礎基本や各教科で使うべき言葉の定着を図る取組を考えていきます。また、計算の仕方や言葉だけを教えるのではなく、なぜそのようになるかなどの根拠や生活とも結びつけるよう授業改善に取り組んでいきたいと思います。

ただ、教科等の平均は全国平均より下回るもの学習活動やそれぞれの教科に対する意識は高く、児童は前向きに学習に取り組んでいることもわかりました。さらには、自己有用感や社会性も高く、喜びを分かち合いながら概ね学校生活を送っていることがわかりました。そのような児童の実態をどのように学力に結び付けていくかが本校の大きな課題だと言えます。残念ながら、「学習習慣」「読書習慣」について極めて低い結果となっています。学校で身に付けた学習習慣を家庭でもしっかり実践することが大切になってくるのではないかと考えます。授業だけでは、学力は身につきません。授業で学習したことを何度も繰り返すことで、確かな学力へと変わっていきます。家庭学習の充実を目指し、学校と家庭・地域とがつながっていけるよう取り組んでいきたいと思います。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。学力は地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。学力向上を目指し、引き続き、規則正しい生活習慣の確立にもご協力を願いいたします。